

K O Σ M O Σ

Vol. 6, No. 2 1971. 11. 25

温故学会を見学して

一 瀬 正

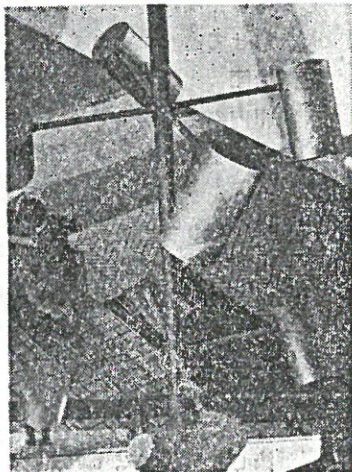
編集の方から何か書いてほしいとのことであるが、図書館には岡田先生はじめ多くの図書関係の専門の方が居られ、その内容などにふれることはまだ私などの手の届くところではないので、ここでは去る7月中旬開催された第32回私大図書館協会総大会の行事の一つとして行われた見学研修会で、かい間見てきたことを御伝えすることにする。

この見学会には、五島美術館、静嘉堂文庫、日本近代文学館、温故学会などの見学のスケジュールが組まれていたが、紙面の都合上、今回は温故学会のみに限ることとする。

御存知の方も居られると思うが、温故学会は明治42年末、盲目の国学者塙保己一検校の偉業を顕彰することを目的として開設されたもので、東京の渋谷区にある。この学会の主な事業は、検校が40余年の間苦心さんたんの末、完成した群書類従の版木1万7千余枚の保存と活用である。一枚の版木は縦30桎、横50桎、厚さ2桎位の大きさの桜の木でできており、その両面に非常に達筆の裏返しの変体仮名で一例えば伊勢物語が一克明に彫りこまれている。我々の一行がここを訪れたとき、学会の人がこの版木を使って木版刷の実演をしてくれた。版木を小さな台の上に固定し、彫られた字の上に墨（この墨は浅草の方の店から特別に仕入れたものだそうである）をぬり、その上に非常に良質の和紙（この和紙も埼玉県小川町から特別に仕入れたもの）をおいて、その上を馬車で2、3回力を入れながらなでて終了する。紙をはぎ取ると1枚1枚がまるで肉筆のような印象を与える。私も1枚、記念に貰って帰った。こういう版木を1万7千余枚も作ったのだから、その苦心は察するに余りがある。彫り間違いは、その部分を取り去り、別の木に彫って埋めこんでいるとのことであった。

高度な印刷技術、便利な複写機器の発達した現代に、このような原始的な手作業によったものを見ると、何か1枚1枚に云い知れぬ味がこもっているような感じがした。

（工学部分館長）



巻頭言	1
新図書館を語る	2
図書館建築を終えて	4
投稿	5
参考図書その他	7
選択委員会議事録	9
カウンター	
業務案内	10

新図書館を語る。

教職員・学生の要望

- A：要望を聞くということで、提案箱が設けられたが、どのくらい受け入れられたか疑問だ。敷地や高さも制限があったし……。
- B：本当に意見を聞きたいということをアピールすれば、紛争があそこまでエスカレートしなかったのではないか。教員有志の方と話した時に出的要望に比べても貧弱ですね。
- G：新図書館への要求と、財政面との一体となった動きの中に、図書館員の意見は反映されてきたと思う。
- F：館員の思想の反映として、防音への配慮、数種の閲覧室の設置などがある。
- D：閲覧室の机、椅子、じゅうたんなどはいいですね。
- G：事務室、閲覧室の明るさもそうです。
- H：開放的で積極的な、姿勢がうかがわれますよ。
- E：しかし、館員がかなりの資料を集め、検討しても、建築上の美観や手順などの理由で採用されず、研究成果を生かし得なかった点も多いですね。
- C：専門的立場から言われたことは尊重してもいい。しかし建築家は予算をまず考えるし、こちらは利用者や働く人が大切だということで対立してしまう。
- L：時間や業務の関係でこちらの立場を十分理解してもらえなかったが、両者の立場をもっとつき合わせてゆくことが必要だったでしょうね。

空気調節

- A：書庫内の空調がうまくゆかず、係が風邪をひいたりしましたね。
- E：それと、どこにいても窓が小さかったり、開かなかったりで、息苦しい。
- C：この建物は、冷暖房をする季節以外でも、換気装置は常に動いていなければならない設計だ。でも費用の点で、機械を動かしてくれない時もあるのです。
- F：しかし、全館空調ということでは、よく学校側が決心してくれましたが……。



J：始めは贅沢だと言っていたのが、あとでは、これからの建物は、こうでなければいけないのだという風に考え方を変えた。図書館はそのきっかけとなった。これも成果です。

書庫

- K：この図書館の特徴は、狭いキャンパスなので、高層の書庫になり、これと利用者とのつながりをどう求めるかということにある。集中管理ということで、コイン・ロッカー、オート・エレコン、参考・雑誌室の位置が決まった。問題の1つは、貸出方式と、安全開架式書庫の利用です。カウンターは、係を8つに分けて、利用者が戸惑わないよう、1ヶ所に集中しないように計画した。しかし、不都合な点があれば遠慮なく申し出てほしい。
- E：分散していた書庫が1つになったことが、新館の一番いい点ですね。
- C：以前のような、分散している故の苦労は二度としたくない。そろそろいっぱいになるので、今後どうするかを早く検討してほしい。それと5階増築についても。
- F：建てたからといって安心せずに、書庫面積の増築を考えてゆく必要がある。保存図書の書庫も考えたい。
- オート・エレコン（搬送機的一种）
- A：書庫が縦に長い（9層）ので、入れてよかった。故障が多いが、モデル・ケースであるということで、それを克服して活用すればよい。カウンターと書庫との連絡の間違いや、時間がかかることなども、皆で話して改良すると便利になるだろう。
- B：オート・エレコンよりも、エア・シューターとリフトとの組合せの方が無難だとの意見もあったんですね。オート・エレコンの利点は、行った箱が帰ってくるのを待たずに、すぐ次の箱を使って本を送れるということにある。
- L：短所は、スピードがないことと請求図書の連絡がインターホン中心になるので、図書によっては混乱が生じやすい。
- 開架書庫
- G：旧図書館の第2閲覧室は、非常に使いやすく、人気があったが、新図書館に、あのような開架室ができなかったのが残念だ。
- J：作る計画はあったんですが、座席数を、学生

10人に対して1席確保するために、けずらざるを得なかったんですね。それと、開架書庫、参考、雑誌室は、少し奥まりすぎましたね。

B：以前は開架室があったのに、こんど安全開架書庫になったというのは、やはり後退ですよ。将来は開架室を設けたいですね。さしあたってこの後退を補うために、カウンターで利用者を待たせないようにしたいですね。

共同研究室

I：3時間1単位の予約制ですが、図書館の本を使って、グループで研究するということですね？

K：計画当時は、本当に使われるかどうか危ぶんだのですが、最近では、自主的に研究しようとするグループの利用がふえていますね。この共同研究室は、他大学にあまり見られない、この図書館の特色の1つです。

教員閲覧室

H：教員閲覧室の利用が非常に少ない原因はなんでしょうね？

F：研究者に対する配慮が欠けているのではないですか。もっと大きな構想を持つべきですよ。研究棟ができれば、その貸出方法とか。

H：あの部屋を、実験的に小さく区切り、契約制にして貸したらどうか？今は机が狭くて資料が十分広げられないですよ。

G：やはり資料と結びついていないから利用されないのでしょうね。

視聴覚室、その他

H：今年度予算で手をつけて、11月いっぱいまでに処理することになりました。

G：マイクロ・リーダーを早く入れてほしい。

J：タイプ、ソロバンなどの機械類が使える部屋がほしいですね。どこにいても静かにしないではいないというのは窮屈だ、という話を聞きましたよ。

屋上

G：屋上については、夜8時以降と、雨天の時を除いて、自由に利用してほしい。

放送設備

A：放送設備をもっと有効に使いたいですね。バック・グラウンド・ミュージックとか、閉館のお知らせとか。『赤とんぼ』ばかりじゃ……。『朝のテーマ・ミュージック』もほしいですね。

F：ためしに流してみる必要がありますよ。

A：学生に聞くとところによると、突然『お知らせ

します』と言うとビックリするらしいですね。はじめに音楽を入れたほうがいい。

ロッカー

G：ロッカーは必要だが、鍵の受け渡しは、カウンターの混雑と手間を考えると、どうしてもできない。そこでコイン・ロッカーを採用した。100円入れても戻ってくる方式にし、持ち合わせのない人にはメタルを使ってもらうことにした。

案内表示、オリエンテーション

J：まだぼく自身も新しい建物にじっくりしてこないのですが……。『D：いろいろな案内表示が不足していると思いま

すね。E：新館がオープンして1ヶ月以上たったのに、まだ案内プレートが揃わないで。今、作っているところなのですが、落着かないですね。

F：館員全部がガイドにあたることですよ。E：それと、図書館の使い方を利用者があまりに知らないですね。オリエンテーションのやり方を考え直した方がいいのではないのでしょうか？

H：ほんとの新入生教育として、ゼミ単位ぐらいの人数で、こちらへ呼び、図書館の利用について、こまかく指導したい。

I：目録に慣れてほしいですね。もしわからなければ、直接館員に聞いて下さい。

A：学生は遠慮をしないでほしいですね。たまに手があいて親切に教えると、かえって気味悪がられることがありますよ。

今後

I：利用者との接触を十分に、よりよい方向へ進みたい。

B：この新図書館は、学内の設備では一番いいし、当分はこのままいくでしょう。しかし規模の点で、学生数2万の大学としては、規程ギリギリだ。これからは図書の実質をはかるべく、利用者の希望に合ったものを購入したい。それと、図書館側からのPRも必要です。

J：宿題として残した問題、館員の努力のいたらなかった点、使ってみて気がついた所、それらを基にして将来計画を作らざるをえない。そこにこんどこそ、学生への呼びかけが必要でしょうね。

(10月15日、26日談)

図書館建設を終えて

永 峰 章

今年9月、長い間その実現を望まれていた新図書館が完成し、開館されました。これまでは私の所属している平山研究室を初め、建築学科では、昭和42年後期から計画を開始、43年5月に実施設計図が完了、着工を待つ所まで進みながら種々の事態が発生し、一時中止という事になりました。しかし45年3月に一部変更を伴う設計に着手、6月設計図完了と同時に工事着工、今年9月に開館に漕ぎ着けたわけです。

研究室では、一時中止の時、工学部図書館の設計々画に携わっておりましてから約4年間というものには常に図書館設計に関係していたという事になり、その4年間、「図書館とは何か」から始まり図書館の見学、資料収集、分析、図書館との打合せ、スタディ等を十分に行い設計々画を進めて、今日に至ったわけです。

1. 新図書館の建築上の特色

A. 各階を機能的に分割

1階—管理関係、2階—閲覧事務及参考雑誌関係、3階—一般学生閲覧室関係、4階—教員、院生閲覧室共同研究室、視聴覚室関係

B. 閲覧事務の機械化

書庫が非常に高層化されていることから貸出事務に労力と時間がかかることが予想される為、図書館建築では初めての試みとして、エレコンを計画し、エレコンとエレベータの2本立で閲覧事務の簡素化を計った。

C. 室内騒音への提案

従来の大学図書館では宋にジュータンを敷くことはなかったが、新図書館では主要閲覧室に敷き、落着いてスタディ出来る様に計画した。

D. 将来への考慮

将来図書館の使われ方、機能、機械等がどの様に変化するか、それに対応出来る様に軽量間仕切で区画し、移動が可能な様に計画した。

E. 意匠、構造上からのブレースの使用

図書館内部にはほとんどコンクリート壁はもうけなかった為に強度剛性の保持と意匠上からH型ブレースを設けた。

2. 機能上の問題点

この図書館に於ては、エレコンの使い方と、各種閲覧室（第1～第5閲覧室）の使い方が図書館の機能上の問題になってくる様に思われる。エレコンについては、図書館に於て十分にその機能を発揮できるかどうか、水平と垂直の接点がうまくいくか、水平エレコンの音が出納コントロールに影響をおよぼさないか等まだ解決されない点がある。

又、閲覧室に於ては、その機能において各室が似ている為に学生自身がどの様に選択するか、閲覧机、照明等で性格づけをしたつもりではあるが、今後検討を必要とする様になるかもしれない。

3. 建築過程における問題

建築を進めて行く上で、技術上の問題点はなかったのですが、前面道路が非常に狭い所に、工事関係の車が多数入ってくる為、問題が発生し、住民からの要請で話し合いました。この結果、工事関係のミキサー車、ダンプ等の通行禁止を条件に解決しましたが、附近の人々の大学に対する印象がなかなか複雑であることも問題を大きく、そして長引かせた原因ではないかと思われました。この事は大学のこれからの計画にも影響を与えることも考えられ、住民と大学との問題には一つ一つ時間をかけて問題解決にあたる事が必要ではないだろうかと思われました。

以上3つの項目に分けて簡単に計画から工事完了までの要点を述べてきましたが、この図書館の良否は、学生達の使い方と、図書館の方々の努力とが結ばれた時に素晴らしいものになるのではないのでしょうか。建物も生きものであり、生かすも殺すも使う人々によってきまる。近頃図書館も情報の蓄積、検索や、機械化も非常に進んでおり立派な建築物が多いが、どうも建物と活動がマッチしておらず白痴美的なものが多い。新図書館は決してその様なことにならない方向に学生、教職員等で努力していこうではありませんか。

(建築学科助手)



—旧図書館への惜別のことば—

奥田 道大

前号の広報で、学長をはじめとして、理事長、図書館長が新図書館誕生にあたっての祝辞をのべられている。キャンパスの一角に全容をあらわにした白亜の図書館は、施設の貧困のなかで研究と教育をしいられてきた東洋大学人にとって、どれほどのよろこびであるかは、筆舌に尽くせないものがある。ただ、わたくしにとって手放しによろこべないのは、旧図書館のとりあっかいについてである。

新図書館の工事が進むなかで、旧図書館が今後どのように利用されるかについて、かなりの関心をもちつづけてきた。そして、大学が真の意味でアカデミックな場であるか否かは、この旧図書館のとりあっかいに象徴されるとさえおもった。わたくしなりの夢は、東洋大学80数年の歴史のなかで命脈を保ちつづけてきたこの建物を、研究の直接的交換の小広場——いわゆるフォーラムの場とすることだ。学部の壁をとりはずした館員の研究報告集会、しかもこれを公開にして、学生の自由参加を原則とする。その他、公開討論会・講演会、また、学生サークルの調査研究発表等、要するに研究の公開が日常化され、学問のスピリット



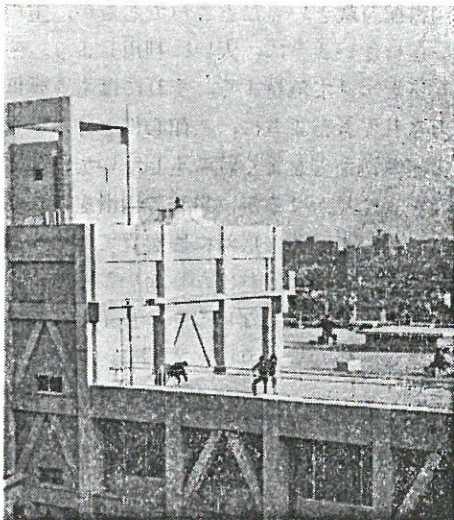
を直接的接触で確認しあえる心臓部とすることだ。

夢は簡単にうちくたかれた。いつの間にやら、旧図書館は、ある学部の事務室に早がわりしている。磯村学長は、新図書館を大学のシンボルとしてみさだめ、欧米の大学、さらには慶応大学のシンボルについても言及されている。建物が大きくなり、装いを新たにしたらからといって、大学のシンボルというわけにはいかない。慶応大学が、数10億円をかけたキャンパスの壮大な構想と計画のなかで、100年の歴史の原点ともいべき福沢諭吉の小演説会館をどのように位置づけているかをみれば、義塾の“良心”と“誇り”というものをうかがい知ることができる。

旧図書館は、対外的に示すべき歴史的いわれがないかもしれない。しかし、東洋大学に学び、巣立っていったものにとっては、大学というものの雰囲気接しえた唯一の場であるといってよい。しかも、大学闘争のさなか、学生のバリケード封鎖のなかでも、図書館だけは“開放”されていた記憶は新鮮である。いまは、通路の拡巾で切除された3号館1階の図書館事務室で、封鎖中でも、職員がもくもくと図書の整理にあたっていた姿に窓ごしに接した折は、感動的でした。

旧図書館をおおう緑のツタはしだいに黄いばみ、秋の訪れをわれわれに知らせてくれる。来年の春は、新芽をもはやふかないのではないか、そんな懸念がしてならない。

(社会学部講師、9月15日記)



キャンパス・ライフと図書館

図書館雑感

“図書館”従来までのそれは蔦の絡んだ古めかしく生きた建物、その中で行儀よく並んだ伝統的な机と椅子、接しなれた空気、今想起することは数多い。

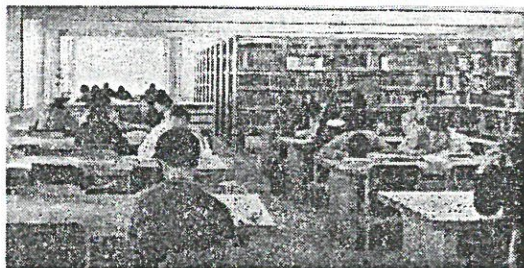
図書館はキャンパスで学問し、議論し、歌い、笑いそして恋と友情の学生の生活を、又大学そのものを知る1つのバロメーターとなり得る。今、その新しいバロメーターが東洋大学キャンパスの一角に装備された。多難の問題を背負いながらも……。

新しい図書館はどこかよそよそしいが、やはり気分のいいものである。本を抱えた若者が絶えず往来する館内にはいろんな空気が流れ、その役割は多い。学問はもちろんのこと恋人？との待合せ、或は睡眠する場所といった風に。でも試験中の館内は、静かさの中で厳しさが支配する。

さて、新館は2階に参考室、3階には個室と閲覧室、4階は共同研究室、閲覧室と多種に分かれ、室内の足音は全く響かないように設計され、大きな特徴となっている。さらに重視したいのは共同研究室である。私自身週に二度利用しているが、その制用価値は大きい。ここでその長所を並べたてると、諸兄が利用した時、その価値の大きさに合点がいくと思う。しかし残念ながらこの研究室は3室しかなく、しかも予約制になっている。従って申し込みが遅れると利用出来なくなるし、又使用時間は最高3時間という制限があるが、まさにこの共同研究室の存在こそ学生生活に不可欠の場であらねばならないと思われる。従って、この研究室がより多くつくられ、より充実されるべきと考える。

最後に閲覧室の机の境界板のことで一言。板の利用価値は自分の領域を確保する為に、又他人に迷惑かけない為にも必要なものかもしれない。しかし利用者に何か違和感を残すのもまた事実ではなからうか。最終的にその解決法は、私達学生自身の心一つにあるものだと思われるのだが……。

史学科3年 (K)



喫茶店に閑古鳥が鳴く!?

新しい図書館ができた。開館第1日目、図書の返却をかねてさっそく行ってみる。広々として気持が良い上、机や椅子までが贅沢すぎる程である。同じお金をかけるなら、もう一階ふやすとか、図書を購入すればと、つい貧乏くさいことを考えてしまうのは、以前の狭く設備の悪い図書館に慣らされてしまったからだろうか。

こんなにきれいな所で勉強すれば、能率もあがろうというものであるが、何よりも嬉しいのは、空き時間に行く所ができたということではないだろうか。相当数の座席があるため、これまでのように「どうせいっぱいだろう」という懸念がない。そういう意味では気楽に利用できるようになった。サークルに学生ホールを占領された無所属の男子も、これからは図書館へということになる。近所の喫茶店にも閑古鳥が鳴こうというものである。

新図書館万歳といったところであるが、宝の持腐れにならないように、大いに利用しよう。そしてお互気をつけて気持よく。それにはもう幾度もくり返されてきたように、入館心得を守ること。説明書記載例などをよく読みもしないで、係に尋ねる人をよく見かけるが、事務の円滑をはかるためにも、係の不要な応対に腹を立てるのを避けるためにも、改めなければならないだろう。

変わり果てた姿を見ないうちに卒業してよかったということがないように、大切に。

国文 4年 (M)

参考図書の解題 —心理学の事典—

① 心理学事典

個々の事実についての正確な知識を収録するという辞書本来の目的とともに、事実間の体系的な理解を与えるためにも役立つものにするという目的をもった、中項目ないし大項目の事典である。中項目の事典としては世界で最もすぐれている。具体的には、大項目でその領域の概観を得たのち、中項目で実質的な研究の内容を知り、小項目で更にそれを補うように構成されている。又、索引を巻頭においている点がユニークである。(梅津・相良・宮城・依田編 平凡社刊 請求記号 140.5:S)

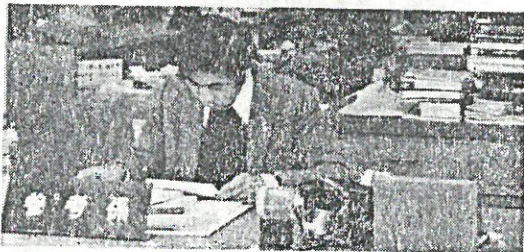
② 教育心理学事典

近來の教育心理学の業績をふまえて、一般心理学や、隣接科学の領域に関する事項も努めて採録されている。巻頭の項目一覧表は、本文の項目配列順序(50音順)にとらわれず、体系的な目次の形式をとっている。各項目の解説はかなり詳しく、末尾にあげてある主要参考文献は便利である。人名項目は、教育心理学関係人名録として、事項項目のあとに一括して収録されている。付録に、教育研究所一覧、児童相談所一覧、現行テスト一覧、教育心理学関係図書目録があり、貴重な資料となっている。(牛島義友・阪本一郎編 金子書房刊 請求記号371.4:UY)

③ 臨床心理学事典

臨床心理学と精神医学との緊密な連絡を意図し、内容を総論、乳幼児期、学童期、思春期、20代、中年期、老年期の7部に分け、それぞれ数章に細分し、大項目主義によって解説したものである。付録として、臨床心理についての施設解説と、テスト一覧、巻末に事項索引がある。(鈴木清等編 岩波書店刊 請求記号 149.03:R)

—参考係—



レファレンス・サービスの実際—第1回—

参考室では参考調査活動の一環として学生・教職員・外部の方々から寄せられる各種の質問に答えるという形のレファレンス・サービスを行なっていますが、今回はその一端を御参考までに紹介したいと思います。

1)「幽霊の正体みたり枯尾花」の作者は誰か(学生)

いろんな機会によく引用される俳句ですが、いざ「作者は？」と問われみるとなかなか思い浮かばないものです。

911.301:A I 評解名句辞典(参考室所蔵) P. 170をみると「ばけものの正体みたり枯尾花」也有

横井也有(1702—1783)は俳人(徳川中期)著書に管見草、小革籠、美南無寿比、短綆録、野夫談、羅窓集、行々子、羅葉集、蟻塚集、的なし、鶉衣、無夜食談などがある。

2) 昭和6年から10年頃までの和書の平均単価を調べて欲しい(図書館員)

025.1:S—2:2 出版年鑑(東京堂編) P. 178の東京堂扱新刊書定価比較表によって、平均単価の近似値を算出すると、昭和6年1円76銭・昭和7年1円61銭・昭和8年1円64銭・昭和9年1円75銭・昭和10年1円91銭となる。昭和45年が1,020円18銭なので当時に比して約600倍の値上りである。

3) La-Martiniere, P.M. de (16-17c)の書いた Voyages des pays septentrionaux の中ででてくる Boranday という地名は現在のどこの国にあるか(教員)

各種の地名辞典類や地図類には記載がないので、やむなく 833:W-3 Webster's new international dictionary of the English language 2nd ed. をみると Boran, Borana は南エチオピアの有力なハム語族(ガラ族)に属する一部族とある。

290.38:T-3 基範世界大地図で Borana をみると南エチオピアの一地方であることがわかる。従って、Boranday はおおむね現在の南エチオピアの Borana 地方ではないかと推定される。

4) 槐安国語の著者及び内容を調べて欲しい
(理事)

最初に 813.2:MT 大漢和 辞典(諸橋轍次著)を引くと槐安国語について説明しかなく、おそらく漢書ではないと判断して 025.1:K-2 国書総目録をみると著者の項目に宗峰妙超頌古、白隠慧鶴評唱、一諸編とあり、次いで 280.3:D 大人名事典で白隠慧鶴を引くと、槐安国語の項にくわしく説明されている。内容については 025:S-2 世界名著大事典 槐安国語の項にくわしく説明されている。白隠慧鶴(1685—1768)は江戸時代における臨済禅の復興者。槐安国語は「白隠和尚全集」第3巻(竜吟社)所収。

—参考係—

新刊図書案内

デズモンド・モリス著
「裸のサル」

われわれ人類という地上に棲息する 193 種のうちのただ 1 種類の「裸のサル」は、その偉大な技術上の進歩にもかかわらず、まだきわめて単純な生物学的現象として存在する。

われわれ「裸のサル」は狼のような素晴らしい聴覚や嗅覚もないし、又、優秀な長距離ランナーでもない。

ライオンのような頑丈な顎と鋭い爪を持った筋肉質の前肢や電光のような素晴らしいすばしこさをも持ち合わせていない。

その小さな地上を這いまわって木の実を採っていた毛のないサルは、その英知で、地上の生物の王者として君臨してきた。だが多くの他の種がそうであったように、人類も又、いつかは他の種に王位を譲らねばなるまい。

われわれ万物の霊長の行動、社会、文化がいかに多く動物行動の基本的な法則により規定され、生物学的合理性によって裏打されているのを知るとき、本書が新たな認識の可能性の一端をわれわれに示してくれたと言うのは過言であろうか？

—登郎—

桜井徳太郎著
「民間信仰と現代社会」

現代文明の急速な発展は、人間社会の福祉を多に増進させた。しかしそれだけでは人間の複雑性を満たすことは出来ない。その隙間に民間信仰・呪術の生き残る余地がある。

それもその時代・社会の移り変りによって、あるものは亡び、あるものは姿を変え、ある時は新しいものが生まれてくる。

地域社会の伝統(民間信仰)が人の心を育んできたのであるが、現代社会にあっては、それは心の奥底に追いやられてしまっているとはいえ、何か事ある時、最終的にはそれに頼ることとなる。

それには生活に役立つものもあれば、人を悲惨な状態へ追い込むものもある——その好ましからざる呪術(迷信)も心の底に根差すものであるから、この変化を求めるのは容易ではない。

現代社会の中で生きる人間が、人間のあり方というものを考えるとき、こういった現象に目を向けてみることも必要であろう。

—H—

平塚らいてう著
「元始、女性は太陽あつた・続

—平塚らいてう自伝—

今年 5 月 24 日、女性開放の先駆者として知られる著者は 85 年の生涯を閉じた。これはその半生記である。

明治 19 年、官吏の三女として東京麹町に生れる。恵まれた生活の中にもひたすら自己の内面を見つめつづけた女学校時代、生涯を通じて著者の精神生活に多大な影響を与えた禅との出会い「青鞥」創刊にたづさわった意外な経過、奥村博との出会い、そして結婚。共同生活という形をとったこの結婚も著者の思想の実践であり、今日でも依然として入籍という形でしか認められない結婚のあり方と、それを強いる体制というものを読む者に考えさせずにはおかない。

なお、著者の通学路であった白山、曙町界限、「青鞥」誕生の地、巣鴨など本学周辺の当時の様子も本書を読む興味の一つとなると思う。

—丸—

三島由紀夫研究文献目録 (最終回)

- 久保田芳太 「三島由紀夫」(解釈と鑑賞, 昭和39.5)
 サイデンス 「三島由紀夫」(新潮社『現代日本作家論』所収昭和 39.6)
 テッカー
 饗庭 孝男 「反日常性の文学」(雙面神, 昭和39.11 『戦後文学論』所収)
 渡辺 広士 「三島由紀夫と大江健三郎」(群像, 昭和 40.5)
 磯田 光一 「三島由紀夫入門一人と文学」(国文学, 昭和 41.7)
 進藤 純孝 「三島文学における背徳」(国文学, 昭和 41.7)
 吉村 貞司 「三島由紀夫におけるギリシャ」(国文学, 昭和 41.7)
 鳥居 邦朗 「三島由紀夫と中世」(国文学, 昭和 41.7)
 野村 喬 「三島由紀夫と劇」(国文学, 昭和 41.7)
 古林 尚 「『憂国』にみる三島由紀夫の危険な美学」(文学的立場, 昭和 41.7)
 饗庭 孝男 『英霊の声』(図書新聞, 昭和 41.8 『戦後文学論』所収)
 橋川 文三 「三島由紀夫伝 (文芸春秋社『現代日本文学館』42 解説 昭和 41.8 『現代知識人の条件』所収)
 磯田 光一 「美的反逆の構造」(日本読書新聞, 昭和 41.10, 「三島由紀論Ⅱ」として『バトスの神話』所収)
 長谷川 泉 「憂国—三島由紀夫」(国文学, 昭和 41.11~42.2)
 古林 尚 「三島由紀夫の立場」(文学的立場 昭和 41.11)
 佐伯 彰一 「三島由紀夫」(講談社『われらの文学』5 解説 昭和 41. 南北社『伝統と分析の間』所収昭和 42.12)
 三島由紀夫 「私の文学」(『われらの文学』5 所収)
 梅本 克己 「三島形而上学への疑問—『英霊の声』にふれて」(文芸, 昭和 42.1)
 小西 甚一 「三島由紀夫と古典—真実と虚偽の彼岸」(解釈と鑑賞 昭和 42.2)
 磯田 光一 「金閣寺」(学歴社『近代文学名作事

典』所収昭和 42.3)

- 日沼倫太郎 「三島由紀夫の反近代—『英霊の声』について」(批評, 昭和 42.4)
 野島 秀勝 「『日本回帰』のドン・キホーテたち」(批評, 昭和 42.4)
 湯池 朝雄 「ナショナリズム批判の視点—三島由紀夫と井上光晴の作品を中心に」(新日本文学, 昭和 42.4)
 松原 新一 「現代ロマン主義の問題—三島由紀夫と亀井勝一郎」(展望, 昭和 42.4)
 三好 行雄 「背徳の倫理—『金閣寺』」(解釈と鑑賞, 昭和 42.4~6. 至文堂『作品論の試み』に『剣』について」とともに収録 昭和 42.6)
 日沼倫太郎 「三島由紀夫」(三一新書『現代作家案内』所収昭和 42.5)
 野口 武彦 「三島由紀夫論」(思想の科学, 昭和 42.6)
 利沢 行夫 「叙事詩的イメージ(三島由紀夫論)」(群像, 昭和 42.9)
 渡辺 広士 「三島由紀夫論」(真興社出版『戦後文学・展望と課題』所収昭和 43.2)
 千頭 剛 「三島由紀夫論—アンチ三島論」(『民主文学』9.)
 討論三島由紀夫 vs 東大全共闘—<美と共同体と東大闘争>—(新潮社)

—おわり—

昭和46年度図書選択委員会議事録(第1回)

日時: 昭和46年10月18日
 場所: 図書館図書選択室

議題Ⅰ 雑誌の更新について

- ① 原則として現在購入しているものを, 継続購入する。
- ② 新たな購入の希望雑誌(学生・教員・図書館)で, 一般教養書は図書選択委員会で決定する。専門書の場合は, その分野の選択委員に判定を依頼し, 選択委員会で決定する。
- ③ 継続不要のものは, 所定の用紙にその理由を記入し選択委員会で決定する。
- ④ 新たな購入雑誌は, 所定用紙に解題, 購入理由等を記入し, 選択委員会で, 次年度予算を考慮の上, 決定する。

- ⑤ バック・ナンバーは、図書扱いにする。購入は、予算の執行状況を見て決定する。

(注) 今後の学部・学科の購入希望を、全体的に調査し、選択委員会で審議し、長期の購入計画をたてる必要がある。

結論：上記の図書館案を承認。

議題II 購入図書の選択

意見 ①専門外の図書は選択しにくい。

②選択図書のかたよりをなくすため、各委員にリストを提出してもらい、選択委員会で決する。

③リストの提出は、その期限を図書館で決める。

結論：①見計い図書と各委員のリストにより、委員会で決定する。

②見計い図書について収集は図書館行なう。

議題III 雑誌の製本

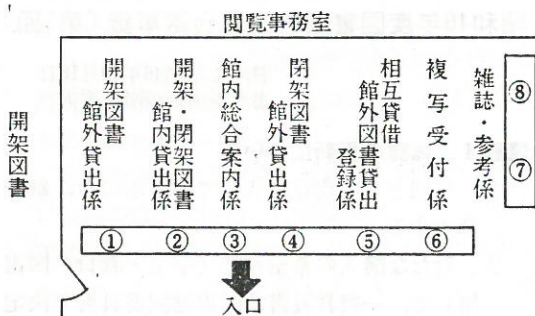
製本を要する雑誌の順位は、学部の委員に依頼する。——了承

議題IV 今回の見計い図書——購入決定

その他の意見 ① 補正予算をくんで欲しい。

② 工学部の委員の役割を分館との関係ではっきりさせて欲しい。以上

カウンター業務案内



- ①……開架書庫に配架してある図書を館外へ帯出する場合、館外帯出カードとブックカードに所定の事項を記入のうえ①の係に提出し、帯出の許可を受けて下さい。

- ②……開架及び閉架図書を館内で閲覧する場合、図書と学生証を②の係に提出し、館内閲覧券及び図書を受けとって下さい。

開架図書は、一度に3冊、開架・閉架図書は両方で一度に5冊まで館内で閲覧することができます。

返却のさいは閲覧券に返却印を押してもらい学生証を受けとって下さい。

- ③……共同研究室・キャレル使用の際の予約を受けつける係です。

ロッカー専用のメダルの貸出し、遺失物についての問い合わせも、ここで受けつけます。

その他、図書館利用について不明の点がありましたら遠慮なくお尋ね下さい。

- ④……開架書庫・参考雑誌室に配架してある図書以外の館外帯出はこの係で受けつけます。

貸出手続きの要領は①と同じです。

- ⑤……図書館外帯出カードの発行を行います。学生証を提出して登録の為の所定の手続きを下さい。

- ⑥……当館所蔵の図書及び雑誌の複写サービスをしています。

料金はB4版以下いずれも1枚25円です。支払い方法は従来通りで、複写物をとりに来るときにはこの係に領収書をお渡し下さい。

- ⑦⑧……それぞれの係まで遠慮なくお尋ね下さい。なお、参考図書・雑誌の最新号及び未製本の大学紀要の貸出しはいたしません。

——閲覧係——

編集後記

新図書館の特集号でございます。様々な仕事を抱えた上での、総員3名の編集委員会。皆様の御協力を感謝！／どうか2号発行で、11月下旬の冷い外気も心地よい。

創造するよろこびと、真実を伝えることの難しさを、今回ほど痛切に感じたことはなかった。カウンター業務案内は、是非とも読んでもらいます！／